

徳島文理大学 サテライトオフィス in 阿南

2018(平成30)年5月19日(土)、本学として2つ目となる「徳島文理大学サテライトオフィス」を阿南市に開設しました。オープニング式典には、本学から田村学長や総合政策学部の学生たちが参加し、また飯泉徳島県知事や岩浅阿南市長にも立ち会っていただきました。

このサテライトオフィスは、阿南市が新たに整備したコワーキング・スペース「あなんスマートワーク・オフィス」を活用するもので、日本最大規模の天文台などがある「阿南市科学センター」の敷地内にあります。ゴルフ場のフェアウェイを想起させるような広々とした場所にあり、Wi-Fiによりサテライトオフィスの外でも作業ができる「新しい働き方や学び方」の実現が可能です。

本学は2018(平成30)年2月、阿南市と包括連携協定を締結し、双方が持つ資源を最大限にいかすことで地域課題解決につなげ、また学生の実践的な学びを深化させることを目的としております。今回開設したサテライトオフィスは、そのための学生や教職員の地域活動の拠点と位置づけられるものです。8月初旬、総合政策学部の学生たちがサテライトオフィスを活動拠点に地域住民や行政の皆さんとのワークショップを開催しました。多くの学部のゼミ活動を含めた積極的な活用を期待しております。



本学サテライトオフィスをバックに記念撮影



本学サテライトオフィス「あなんスマートワーク・オフィス」内で作業する総合政策学部の学生たち

フレンチ薬膳セミナーを開催



薬学部 梅山教授による講義



地元の旬の食材を活用したフレンチ薬膳の前菜

2018(平成30)年5月26日(土)、本学が2年前に美波町に開設した「徳島文理大学門前町サテライトオフィス」において、初めて「フレンチ薬膳セミナー」を開催いたしました。

本学と美波町は2016(平成28)年7月に包括連携協定を締結し、「歴史文化の力でまちづくり事業」を展開しております。この事業は「薬王寺門前町再生プロジェクト」と「100年ぶりの人形浄瑠璃『赤松座』復活プロジェクト」から構成されており、総合政策学部・音楽学部・薬学部・短期大学部など複数の学部・学科が活動に参加しています。今回の「フレンチ薬膳セミナー」は、徳島県や美波町のバックアップを受け、地元のフレンチレストラン「ラトリエ阿部」のシェフにもご協力いただきながら、30人の方々に参加していただきました。

田村学長と影治美波町長の挨拶の後、第1部では「薬王寺門前町再生の意義(総合政策学部 床桜教授)」、「薬効の視点からの薬膳料理(薬学部 梅山教授)」、「栄養の視点からの薬膳料理(短期大学部 松下教授)」についてそれぞれ講義を行いました。第2部では旬の地元食材を最大限活用したフレンチ薬膳について、ひとつひとつ解説をしながら試食をしていただきました。いずれも従来の薬膳料理のイメージを一新するものであり、参加者からは驚きの言葉とともに、こうした取り組みの継続を求める声を数多くいただきました。関係者とも相談しながら今後の取り組みについて真剣に検討をしていきたいと考えております。

また、「薬王寺門前町再生プロジェクト」関連では、2018(平成30)年7月14日(土)の夕方から音楽学部の学生たちによる「薬王寺ライトアップコンサート」が開催され、多くの聴衆を魅了しました。

第48回 学生員卒業研究発表講演会 優秀発表賞を受賞

2018(平成30)年3月6日(火)に徳島大学にて開催された、日本機械学会中国四国支部主催による第48回 学生員卒業研究発表講演会において、理工学部機械創造工学科4年生の山本一輝さんが「フィルム冷却効率へのヨーアングルの影響について」という論文を発表し、優秀発表賞を受賞しました。

機械創造工学科では2015(平成27)年

度から、体系化された新カリキュラムを適用し、授業・演習・実験・実習をバランス良く配置した教育を行い、4年生では未知を探求する卒業研究を実施しています。今回の発表講演会では、所属研究室の工学研究科システム制御工学専攻(博士前期課程)1年生の藤田隼矢さんと山本さんが行っている共同研究の成果を発表しました。国公立大学が受賞の大半を占



優秀発表賞を受賞した山本一輝さん

める中、本学の建学精神「自立協同」と教育改革がいかされた成果と考えられます。